

2026年9月8日

昭和産業株式会社

北米森林ファンドへの出資に関するお知らせ ～主要原料の調達拠点である北米の自然資本保全を通じ、 持続可能な食の供給基盤を強化～

昭和産業株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長執行役員 塚越英行）は、サステナビリティ経営の推進と環境価値の創出を目的として、森林カーボンクレジット創出型ファンド「EFM Sojitz Forest Fund」（以下「本ファンド」）への出資を決定いたしました。

本ファンドは、米国北西部を拠点とする森林アセットマネジメント会社 EFM Investments & Advisory, LLC（以下「EFM 社」本社：米国オレゴン州）と、双日株式会社（本社：東京都千代田区）が共同運営するものです。



EFM 社が管理するオレゴン州の森林（写真：EFM 社提供）

1. 本出資の目的

当社グループは、2050年のカーボンニュートラル実現を長期的な展望として掲げています。これまでも、製造工程における省エネルギーの徹底やバイオマス発電ボイラーの導入など、自社努力による温室効果ガス（GHG）排出削減を推進してまいりました。また、穀物由来の副産物を原料としたバイオディーゼル開発など、社会全体の排出削減への貢献を目指し取り組みを進めております。

脱炭素化に向けた世界的な潮流に対し、自社での削減努力に加え、多様なアプローチにより環境負荷の低減を図ることが求められています。本ファンドへの参画を通じて、森林資源の多面的な価値創出に寄与することで、環境戦略を多層化し、中長期的な事業の持続可能性を追求してまいります。

2. 主要原料産地における「自然資本」への貢献

小麦・大豆等の主要原料の多くを北米から調達する当社にとって、米国北西部の森林が持つ水源涵養・気候安定化機能は、農業生産を支える不可欠な「自然資本」です。主要原料の調達拠点に近い森林環境の保全・管理にファンドへの出資を通じて参画することは、産地の持続可能性を高め、「食の安定供給」という社会的責任を果たす実効性の高い取り組みとして位置づけております。

3. 今後の展望

本ファンドへの参画は、当社が重要課題（マテリアリティ）として掲げる「未来に繋ぐ地球環境の実現」を具体化する取り組みです。森林保全を通じて、気候変動への対応、水資源の保全、生物多様性への貢献を同時に推進してまいります。今後は、本取り組みで得られる知見をグループ全体のサステナビリティ経営に還元し、ステークホルダーの皆様とともに、持続可能なバリューチェーンの構築を加速させていく方針です。

本ファンドの概要と特徴

本ファンドは、米国北西部における広大な森林資産を取得・管理し、炭素吸収機能や生態系保全機能、水源涵養機能といった森林資源が本来持つ能力を最大限引き出していくことを目的として設立されました。対象森林については、高度な管理体制を構築している EFM 社の運用ノウハウを適用し、全対象森林で FSC® 認証（※）等の国際的な森林認証の取得を計画しています。

ファンド名称	EFM Sojitz Forest Fund
運営主体	EFM 社（米国）および双日株式会社
対象地域	米国北西部（ワシントン州、オレゴン州等）
投資対象	国際的な森林認証（FSC®等）を取得予定の森林資産
目標運用資産規模	2 億ドル程度

※FSC®認証

責任ある森林管理を世界に広めるための国際的な認証制度です。本ファンドでは、客観的な基準に基づいた環境保全と地域社会への配慮を確実に実行するため、この認証取得を運用の柱としています。

以 上